



「生涯活躍のまち」第1回事例紹介セミナー

日時

令和6年5月29日(水) 14:00~15:30

Zoom会議

主催：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局



意見交換会の内容

概要

全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」づくりに係る取組の共有のため、**山形県 長井市** 及び **長野県 駒ヶ根市** から取組事例について発表するとともに、「生涯活躍のまち」づくりの第一人者の **三菱総合研究所 松田様** から講演をいただきました。

当日のプログラム

1 地方公共団体の取組事例

地方公共団体の職員から、それぞれの地域における全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」づくりの取組について、概要や具体的な取組を紹介。

山形県 長井市

コミュニティセンターを核とした地域住民主体の地域づくり

長野県 駒ヶ根市

人生100年型多世代交流コミュニティの実現

2 講演「生涯活躍のまち」の好事例とその特徴

三菱総合研究所 松田氏

足下の「生涯活躍のまち」の状況や好事例の紹介するとともに、その事例から見える共通点や取組のアイデア、今後の展望についてご講演いただいた。



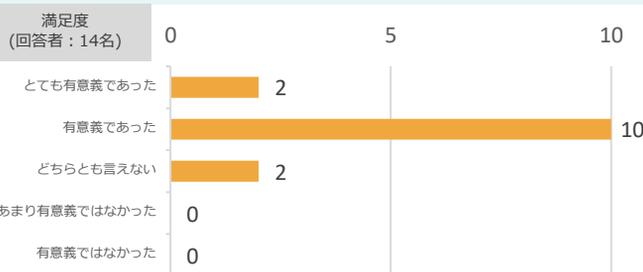
参加者の声

事例紹介セミナーには、**46の団体や個人の方**にご参加登録いただきました！

「取組事例」の参加者の声

具体的な事例紹介であり、今後のまちづくりのヒントになりました。

現在総合戦略の見直しを行っており、本市でもどのような取り組みができるかを考えるにあたりヒントをいただきました。



「講演」の参加者の声

CCRCのこれまでの流れや分類ごとの先進的なまちづくりの取り組みを把握することができました。

改めて、「生涯活躍のまち」について理解する機会になりました。

取組事例及び講演それぞれでも、**8割以上**が「有意義であった」との回答でした。



事例紹介 1

山形県 長井市

コンセプト

コミュニティセンターを核とした地域住民主体の地域づくり

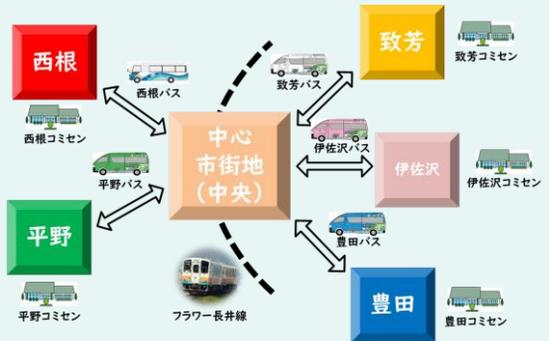


取組の全体像

- 当市では「第2期長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」上の基本目標のひとつに「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守る」を掲げており、目標達成に向け、**市内コミュニティセンターを拠点としたコミュニティ維持に資する住民同士の地域づくり活動等を「生涯活躍のまち」構想実現に係るコア事業としている。**
- 令和4年度にはこれまで各地域運営組織をコミュニティセンターの指定管理者とし活動を支援してきたが、市全体として地域づくり活動をより充実したものとするため、(一社)長井市コミュニティ協議会を設立し、施設運営を行っている。現在、山形県と連携しデジタル田園都市国家構想交付金(「生涯活躍のまち」分野)を活用し、本法人の運営と活動支援を行っている。

具体的な取組

- コミュニティセンターでは、各地区の実情に応じて健康づくり、地域内マルシェ、買い物、有償ボランティア等、複数の取組を実施しており、**多様な機能を持たせることで様々な人が集まる場所を作っている。**
- 今後は、全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の実現に向けて、6地区のコミセンが小さな拠点として必要な機能を備えるため、**地域住民による生活支援やなりわいづくりを実施する共助体制を構築し、生活の質の維持・向上を図るため、地域内の移動支援や買い物支援、人材育成を実施するとともに、デジタル体組成計を活用した健康教室やeスポーツ体験等、デジタルを活用した居場所・交流・健康づくり促進等を進める。**



事例紹介 2

長野県 駒ヶ根市

コンセプト

人生100年型多世代交流コミュニティの実現

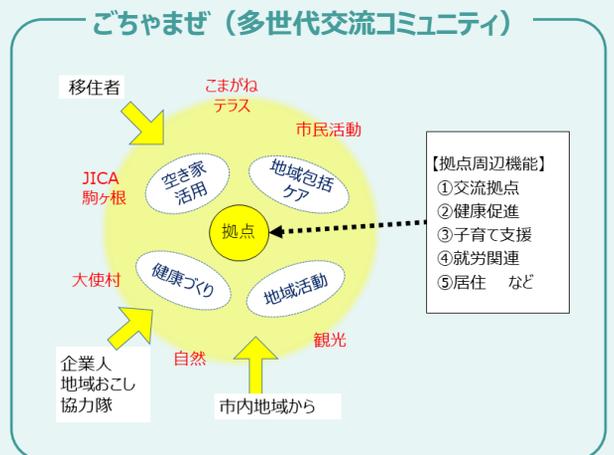


取組の全体像

- 第2期駒ヶ根市総合戦略(R3~R6)では、基本目標に対する重点プロジェクトとして、「生涯活躍のまち」×中心市街地活性化を位置づけ、「生涯活躍のまち」構想及び生涯活躍のまち事業計画を策定している。
- まちなかに整備した市民活動支援センターやウェルネス施設、保育所施設等の地域交流拠点を核に様々な機能をまちなかに展開することで、**障害者、高齢者等、様々な人々が行きかう環境を構築し、相互扶助や住民参画が自然と行われるごちゃまぜの地域づくりを実現している。**
- 「生涯活躍のまち」づくりでは所管課は様々だが、**毎年、庁内外の関係者が取組ごとに参集する部会を開催することにより縦割りを乗り越え相乗効果を高めている。**

地域再生推進法人について

- 地域づくりの実績や知見を持った(公社)青年海外協力協会(JOCA)が、本部を駒ヶ根市内に移転したことを契機に、**ノウハウを蓄積した法人との連携を通じて効果的なまちづくりを進めるため、同法人を地域再生推進法人として指定した。**
- 「生涯活躍のまち」づくりの役割分担において、主に駒ヶ根市においてはデジタル田交付金等の手続きや地域おこし協力隊の派遣等、JOCAにおいては、拠点施設整備や運営、地域団体や企業に対する活動サポートを実施している。
- 地域再生推進法人のメリットは、**地域再生計画に沿いつつも、地域の実情に応じた事業計画を策定してもらえること、地域住民や団体等とのネットワークづくりやコミュニティづくりに優れていること等が挙げられる。**



地方公共団体へ事例に関するQuestion



若者にも関わってもらうために実施している具体的な取組を知りたい。

参加団体



若手スタッフが中心となって地域の子供向けの探求型教室の運営及びプログラムの企画等に取り組んでいます。

長井市



当市では市民レベルの国際交流の取組が根付いています。秋に実施している国際広場が最大級ですが、繰り返し開催することで若者が若者を呼ぶ素地が整ってきました。
またその皆さんが他の取組にも波及しています。

駒ヶ根市



「生涯活躍のまち」づくりを進めるうえで、庁内の関係部局等で意見交換をしていく際、職員の役職等、どのようなメンバーで実施したのかを聞きたい。

参加団体



総合計画を策定する際に、各課の20代～30代で構成されるワーキンググループを組織して意見交換を進めてきた経過があります。「生涯活躍のまち」づくりもそうした意見交換の中で方向性を定めてきました。

長井市



毎年、取組ごとに部会を開催して意見交換していますが、庁内の担当者に加えて市内の団体担当者なども一緒に出席いただく中で行っています。

駒ヶ根市

講演

三菱総合研究所 主席研究員 チーフプロデューサー 松田 智生 氏

演目

生涯活躍のまちの好事例とその特徴



生涯活躍のまちについて

- 「生涯活躍のまち」は、第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略において東京圏の高齢者の地方移住として位置づけられていたが、第2期においては多世代のコミュニティづくりとして位置づけられており、**サ高住設置ありきでない交流拠点等を中心とした地元住民主体の取組**となっている。

生涯活躍のまち好事例の特徴

- 長期にわたって「生涯活躍のまち」づくりを進めている山梨県都留市や、地元住民を対象として交流拠点を中心に取組を進めている愛媛県宇和島市、地域金融機関が事業化してアクティブシニアが増えた秋田県秋田市、桜美林大学と連携して多世代コミュニティを構築している東京都町田市等が挙げられる。
- これらの好事例から、「生涯活躍のまち」づくりを進めるために重要なことは、
①**首長の強かなリーダーシップ**により取組が前に進むこと、②**担当職員の継続性**（総入れ替えにならないこと）、
③**官民連携**により民間事業者のノウハウを活用すること、④関係者との**丁寧な合意形成**を図ること、
⑤**事業主体に参画**してもらうこと（事業主体：地域再生推進法人（まちづくり会社）、社会福祉法人、医療法人 等）

今後の展望について

- デジタル活用は手段であって目的ではなく、「生涯活躍のまち」づくりにおいては、多様なデータの活用や、デジタルとアナログを組み合わせる取組を進めることが考えられる。
- 学びや地域貢献が地域通貨や将来の介護につながるなどのポイント制度や、高齢者の方などを中心にもう一度学校で学ぶ第二義務教育制度などの取組が挙げられる。
- 「生涯活躍のまち」づくりに向けては、**わが街らしい「生涯活躍のまち」を、①交流・居場所、②活躍・しごと、③住まい、④健康、⑤新たな人の流れの5分野の観点**で考えてみる必要がある。

お問合せ先

「生涯活躍のまち」分科会について

内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 中村・藤村

☎ 03-6257-1414

✉ JPccrc@cas.go.jp

「生涯活躍のまち」のイメージや取組事例等については、次のURLからご確認ください

<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/ccrc/index.html>

